

一般社団法人

日本助産学会ニュースレター



第29回日本助産学会学術集会報告

第29回日本助産学会学術集会会長
上智大学総合人間科学部看護学科
島田 真理恵

去る3月28日、29日に開催いたしました第29回日本助産学会学術集会は、1,100名を超す方々にご参加くださり、盛会のうちに終了することができました。ここに概要をご報告させていただきます。

会長講演では、本学術集会のテーマについて、お話をさせていただきました。少子超高齢社会である日本において、助産の対象である女性、母子とその家族の状況は多様化しており、その状況を十分理解して、助産師自らが、どのような支援ができるのかを提案、実践するとともに、その実践の効果を研究として蓄積していく必要があると思います。また、助産師は何がどこまでできる職能なのかを社会に可視化する努力をしていくことも必要です。これらを推進していくことは、女性、母子とその家族がより快適にそして健康に過ごしていける方向へ社会をうごかす原動力になっていくと考え、学術集会のテーマを「社会をうごかす助産のちから」とし、プログラムを構成しました。

基調講演では、社会学者である上智大学学務担当副学長の藤村正之が、これからの日本人のライフスタイルはどのように変わっていくかを解説しました。特別講演としては、日本看護協会常任理事の福井トシ子先生に助産師出向制度や助産師のキャリア開発など日本での助産師職能の発展の方向性についてお話をいただきました。加えて、元国際人口基金東京所長で、現在は日本大学大学院教授である池上清子先生からは、グローバル社会に対応した今後の助産師活動の方向性についてお話をいただきました。

教育講演、シンポジウム、ワークショップでは、研究力を高めること、助産を取り巻く社会の動きを確認することや助産の対象をより理解することを目的としたテーマを取り上げましたが、それぞれに多くの方がご参加くださいました。

また、今回のポスターセッションは、発表8分、意見交換4分と、長めの発表時間を設定しました。それぞれのセッションで活発な意見交換がなされており、十分な時間を確保してよかったと感じました。

そして、学術集会の感想として、参加者の方々から、「助産に関する最新の情報や社会の状況を知ることができた」、「研究、実践、教育それぞれに役立つバランスのよいプログラムだった」、「ためになるだけでなく、楽しい学会だった」との言葉をいただきました。企画委員、実行委員一同、皆様に喜んでいただける学術集会となりましたことを本当にうれしく感じております。

最後にご協力くださった方々、ご参加くださいました皆様に感謝申し上げます。また、各会場が小さかったため、セッションによっては、参加を希望する方々全てがお入りいただけなかったこともあり、ご迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。この他にも至らぬ点が多々ございました点につきましては、ご容赦ください。皆様、本当にありがとうございました。



島田真理恵先生 我部山キヨ子先生 高田昌代理事長
(今期学術集会会長) (次期学術集会会長)

平成 26 年度(2014)一般社団法人日本助産学会 第 5 回社員総会報告

庶務担当理事 片岡 弥恵子

第 29 回日本助産学会学術集会にて、平成 26 年度定時社員総会および学会総会開催が行われた。高田理事長よりの理事会報告の後、各理事から委員会の活動について報告された。特記事項としては、ICM アジア太平洋地域会議・助産学術集会開催に向けて日本看護協会、日本助産師会との協働、ニュースレターの Web 版への移行、学会誌掲載論文数の増加、助産ガイドライン(妊娠期)の作成などがあげられた。審議事項としては、入会の申し込みに関する定款の改

訂、平成 26 年度決算報告および監査報告、平成 27 年度事業計画案および予算案、そして第 31 回学術集会会長葉久真理氏が承認された。平成 27 年度事業計画では、助産に関する用語の策定、助産ガイドライン(妊娠期)の発刊、Web による広報活動の強化、健やか親子 21 活動の推進、30 周年行事の企画と実施、学会ビジョンの検討など新規となる計画が多く盛り込まれており、学会の更なる発展を目指した内容となった。

平成 26 年度学会賞表彰者

表彰関連委員会 佐藤 喜根子



左から、竹内美恵子先生、渋川あゆみ先生、篠崎克子先生

功労賞 竹内 美恵子

(表彰理由) 竹内美恵子氏は、日本助産学会設立発起人として、また設立準備委員として助産学会創設にご尽力いただき、学会創設時から 2008 年 3 月まで、7 期 21 年間にわたり理事として助産学会の発展に貢献されました。その間、学術振興理事(15 年間(第 1 期-第 5 期))として、学会員の研究への意欲を高め、研究力向上を支援するワークショップを日本各地で開催してこられました。また、2002 年から 6 年間は会則・渉外担当理事として、本学会の土台作りと、学会内外へのアピールを行うなど、精力的に活躍されました。また、1997 年 3 月には、第 11 回学術集会会長(テーマ:「助産学の体系化に向けて」)として、おもてなしあふれる学術集会を主催され成功されました。さらに竹内氏は、ICM 加盟に向けてイギリスを訪問し、当時事務局長であった故マリー・コブラン氏と面会されるなど、諸外国の助産師教育、実践を見学され

るなどパワフルに助産を探求され、現在は、大学病院での看護職者の教育に貢献されておられます。

竹内氏の学会への貢献は、1987 年(第 1 期)から 2008 年 3 月(第 7 期)まで理事として、2008 年 4 月(第 8 期)から 2014 年 4 月(法人 2 期)まで監事として、学会創設前から現在まで本学会運営に多大の貢献をいただきました。その結果、日本の助産学の学術的発展の礎が築かれたと高く評価されます。

学術賞 篠崎 克子

(表彰理由) 篠崎克子氏は、聖路加看護大学看護研究科博士課程にて看護学博士の学位を取得され、現在国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻助産学分野の准教授としてご活躍中です。これまで、分娩期の女性のケアに焦点を当てられ、産婦の体位を自由にするケアを推進するための要因の分析と、一貫して妊娠・分娩期の研究を継続され、実践に直結した研究成果を上げてこられました。

今回の学術賞の論文は、「多様な分娩体位の実践に影響を及ぼす要因の探索」で、過去 1 年間直接介助した助産師に質問し、多様な分娩体位の実践の促進あるいは阻害影響要因を探索し分析しております。

篠崎氏が開発した Alternative Labor Position(ALP)尺度を用いて共分散構造分析したものです。回答した 387 名の助産師中 3 種以上の分娩体位の実践者は 124 名(32%)で、そのうちの 81.1%が分娩体位の多様性に利点と興味深さに肯定的でしたが、60.4%が慣例的に載石位で実施しており、意識と実践に乖離があっ

たと分析しています。また、「多様な分娩体位の実践」の促進要因は「革新性」「専門性が発揮できる産科単科病棟」であり、阻害要因は「変革を好まない考え方」「技術に対する戸惑い」と分析され、実践の場での活用が期待されることが高く評価され、ここに学術賞として推薦いたします。

奨励賞 渋川 あゆみ

(表彰理由) 渋川あゆみ氏は、鳥取大学医療技術短期大学部、岡山大学医学部附属助産婦学校をご卒業の後に、島根医科大学にご勤務され、現在は島根県でクリニックの副院長として、助産の実践をまとめ臨床に生かし、マネージメントに反映するなど助産の質の向上にご尽力されております。同時に、子育て中のおかあさん達の味方となって未来の子どもたちのためにも、

社会全体が子育てしやすい環境になるように行政へも呼びかけられたらという夢を抱き、自ら設立された「いっしょに子育て研究所」の所長を勤めご活躍中の助産師でもあります。

また、渋川氏は日本助産学会の会員として、本学会の活動に積極的に参加され、特に最近は、第26回日本助産学会学術集会のシンポジストとして院内助産システム作りを推進する立場から、助産師の実践能力の強化づくり発表されました。また第28回の学術集会では診療所における助産外来や院内助産の取り組みを島根県から発信するなど、継続した助産活動を実践しつつ普及・啓発活動にご尽力されています。これらの活動は助産実践の発展と普及に果たした貢献は大きく、ここに奨励賞として推薦を致します。

学術賞受賞論文 誕生秘話

国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 篠崎克子

この度は、学術賞を授賞に当たり、身に余る光栄と心より感謝申し上げます。

突然、信じられない通知を受け取った時、人は三度見直します。この春、日本助産学会学術賞受賞の通知を受け取った時のことです。1回読んで「何のこと？」と理解できず、2度目に「えっ！」と声を上げて驚き、3度目は書類を逆さにしてみるという、訳の解らない行動に至りました。

さて、受賞に至ったこの研究は「山あり谷あり」ならぬ「山あり谷ばかり」。

最初のテーマ選定から、波乱の兆しがありました。修士修了から10年も経過してしまい、私が思いつくようなテーマは、研究し尽くされていました。2010年の秋、神宮外苑のイチョウ並木通りを、真っ暗な顔をして歩いていたのは私です。大学を退職し博士に臨んだ私は、研究を続ける以外に戻る場所はありませんでした。とりあえず、多様な分娩体位が、臨床で、どのように取り入れられ実践されているのかをまとめてみることにしました。海外では、既にエビデンスで認められ多様な体位で分娩が実施されていますが、日本で実践している助産師は、わずか12.5%でした。そこに着目し、多様な分娩体位の実践の促進及び阻害要因を探ることにしました。変革理論を使用し要因分析を行うこと、どのような知識が不足し実施に至らないのかという要因を探索することに独自性が認められ、テーマが決定。本当に難産でした。その後は、

必死で計画書を作成。そして臨んだ審査会。主査の教授と、3人の副査に囲まれ、次々と質問が飛んできました。看護管理が専門の副査から「変革理論は、プログラム開発なら使えますが、要因分析には適切ではありません。」とバツリ切られました。結果は、当然、不合格。別の副査の先生が帰り際に「ごめんね。」と優しく声をかけられた時、我慢していた涙が溢れ出しました。その後、普及理論も含めて考えた方が良いという副査の先生の指導を頂き、独自の概念枠組みを作成。やっと再審査も合格。そして多くの協力を頂き研究を実施。研究結果は、なんと、あの普及理論の分類が見事に分かれたではありませんか。私は、副査の先生のお部屋の方向に向かって「有難うございました」と感謝の気持ちを込めて手を合わせました。計画書の審査会では泣いていたのに、結果がきれいに出ると感謝に変わる、何て現金な私。早速、感謝を込めて結果を報告すると「私は仏になりましたか。」という返信(笑)。

色々と質問攻めされ、苦労されている研究者の皆様、その苦労は必ず実るのです。

その実は、生涯、あなたの宝になるのです。諦めないで、あと少し、一緒に頑張りましょう。

最後になりましたが、この研究にご協力下さいました臨床の助産師の皆様、研究指導を頂きました聖路加国際大学の堀内成子先生、学長の井部俊子先生、産婦人科医の進純郎先生、天国から見守って下さった柳井先生、心から本当に有難うございました。

2016年度 日本助産学会 研究助成公募

学術振興委員会委員長 葉久 真理

応募締切日：2015年11月20日（金）必着

日本助産学会では、本学会の会則に基づき、助産学に関する研究を推進するために研究費用の一部を助成し、助産学の発展をはかり、わが国の母子保健に寄与することを目的に研究助成を行っております。

2016（平成28）年度の研究助成申請は、以下の要領にしたがって手続き下さいますようお願いいたします。

応募資格

日本助産学会員として2年以上加入している会員であること

研究分担者は会員であること（加入年数は問わない）

申請書の請求

日本助産学会ホームページ（<http://square.umin.ac.jp/jam/>）「研究助成案内」から【申請書】をダウンロードし、必要事項を記入の上、事務局宛にご送付ください。

研究課題

学術奨励研究

助産学の発展、助産実践の改善と開発、その他母子保健領域の学術的研究等。

助成額は、30万円以内/1件。
3件程度採択

助成者の決定および通知

助産学会理事会で審議、採否決定後、主研究者に通知いたします。

応募に関する留意点

申請書は、楷書（パソコン等での作成を推奨）でご記入ください。

申請書並びに別刷り、参考資料等の提出に関しましては、ホームページの助成実施要項をよくご確認ください。

提出された申請書は返却いたしませんので予めご了承ください。

最終に提出された報告書は、原則として日本助産学会のホームページに掲載する予定です。

【問合せ先】

一般社団法人日本助産学会事務局
〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 1-24-1
第2ユニオンビル 4F
（株）ガリレオ 学会業務情報センター内
TEL：03-5981-9826 FAX：03-5981-9852
E-mail：g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp

多数の方の応募をお待ちしております！

ICM募金の御礼と継続支援のお願い

一般社団法人日本助産学会事務局

日頃から、皆様方の暖かいご支援とご協力をいただき感謝申し上げます。

今回は徳島県「国際助産師の日」事業促進会様から、募金のご協力をいただきありがとうございました。

ICM支援のための募金を常時受付けております。引き続きのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

ICM募金振込先

☆ICMスポンサー・ア・ミッドワイフ(国際基金)☆

発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。

一口 2,000円

振替口座番号:00190-8-710931

加入者名:日本助産学会国際基金

☆ ICMセーフマザーフード基金 ☆

世界で妊婦死亡率・罹病率が最も高い地域における助産知識の発展を支援する募金です。

一口 1,000円

振替口座番号:00240-8-6818

加入者名:日本助産学会ICMセーフマザーフード基金

事務局からのお知らせ

今年度平成27年度会費（10,000円）納入について

本学会は、皆様の会費をもとに運営しております。円滑な事業推進のため、会費納入がまだお済でない方は早急に下記まで、氏名・会員番号等を通知の上、お振込みをお願いします。なお、今年度は代議員および理事選挙の年です。6月末までの会費納入者が選挙人対象者となりますのでご了承ください。

・郵便振込：00120-2-763540 加入者名：一般社団法人日本助産学会
通信欄に会員番号と納入年度を明記

・銀行振込：ゆうちょ銀行（9900）〇一九(ゼロイチキョウ)店（019）（当座）0763540
一般社団法人日本助産学会（シヤ）ニホンゾウサカガクカイ 氏名と会員番号を通知してください
学会誌投稿（共同研究者含）、学術集会演題応募（共同研究者含）、研究助成応募（研究代表者）等は、会員で該
当年度の会費納入済みが条件になります。応募される場合は、お早めに会費納入をお済ませの上、お申し込み下
さい。また、会費納入が遅れますと学会の諸情報の送付が滞りますのでご注意ください。
なお、納入会費の領収書発行に関してはお手数ですが事務局宛にメールかFAXでご請求ください。
会費納入・会員番号等に関してご不明な時は、事務局までお問い合わせ下さい。

変更届について

住所等の変更に関しては、オンライン会員情報管理システム（詳細は下記）で変更手続きが出来ますのでどうぞ
ご利用下さい。以下のホームページからID（会員番号）とパスワードをご入力の上、ログインいただき、ご希望
の手続きを行ってください。

オンライン会員情報管理システム：<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/JAM>

ID・パスワードがご不明の場合は事務局宛お問い合わせ下さい。

オンライン会員情報管理システムがご利用になれない場合は、変更届の書式は問いませんが必ず書面（E-mail・
FAX・はがき等）に明記して、その都度お早めにお知らせください。本学会ホームページからも「変更・退会届」
の書式がダウンロードできますのでご利用ください。

変更届は必ずお出しください。学会誌等が届かないような場合は事務局までご一報ください。

退会届について

退会届の書式は問いませんが、書面（E-mail・FAX・はがき等）でお知らせください。本学会ホームページから
も「変更・退会届」の書式がダウンロードできますのでご利用ください。

*次年度から退会希望の方は、必ず1月末までに退会届け出をお願いします。退会連絡がない限り会員継続となり、
年会費をお納めいただくことになります。特に口座引き落としご利用の方で退会希望される方はご注意ください
たいのですが、会費引き落とし後の退会の会費についてはお返しできません。ただし会費納入年度の学会誌等は
送付しますので、十分にご理解いただきたくよろしくお願い申し上げます。

学会誌バックナンバー等の販売のお知らせ

日本助産学会誌バックナンバー第20～27巻は2,500円ただし26巻2号別冊の[エビデンスに基づく助産ガイド
ライン]は3,000円、28巻は3,500円(各1部)。日本助産学会暦年記録は、1部3,000円。送料は申込者負担で
す。

在庫に限りがありますのでご希望に添えない場合はご容赦願います。

申込み方法は、本学会ホームページから申込書をダウンロードして希望を記入の上事務局宛にE-mail添付送信
するか、FAXしてください。

一般社団法人日本助産学会事務局

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-24-1 第2ユニオンビル4F

株式会社ガリレオ 学会業務情報センター内

TEL:03-5981-9826 FAX:03-5981-9852

E-mail: g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp

ホームページ: <http://square.umin.ac.jp/jam/>

※日本助産学会事務局は2014年6月23日に移転しました。

円滑な事業推進のため、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。